

# 大谷専修学院

— 2023年度入学案内—



# もくじ

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 学院長挨拶                         | 3  |
| I 学院の教育について                   | 4  |
| II 学院の生活について                  | 6  |
| 1 入学                          | 6  |
| 2 勤行と感話 3 清掃                  | 7  |
| 4 授業                          | 8  |
| 5 願生の会と同朋会 6 機関誌              | 9  |
| 7 行事・年間日程                     | 10 |
| III 食堂の生活について                 | 12 |
| IV 学寮の生活について                  | 13 |
| V 学院生活の1日                     | 15 |
| VI 学院生活をしていく上での留意点            | 16 |
| VII コンプライアンス・ガイドライン・マニュアルについて | 17 |
| <学院周辺地図>                      | 18 |

# 「えらばず、きらわず、見すてず」の 念仏の学校



この しゅうぞん  
学院長 狐野 秀存

学院の正面玄関を入ると、竹中智秀先生たけなかちしゅうの書かれた「えらばず、きらわず、見すてず」の額がかかっています。

如来の摂取不捨（えらばず、きらわず、見すてず）の心を学び、真実、自分自身のしたいこと、しなければならないこと、できることを、他人とくらず、あせらず、あきらめず、していこう

この言葉は、ご子息がいよいよ社会へ巣立っていくにあたって、先生がはなむけとして贈られたものです。

「摂取不捨」。真理の一言です。学院はその阿弥陀の心を学ぶ生活学習の学校です。そのために、お互いが生活を共にする全寮制を敷いています。そして皆が参加する食堂を開いています。寝食を共にすることを通して、隣りにいる人、目の前にいる人の心が映ることを願っています。

現在の学院の形を作られた学祖信國 淳先生のぶくにあつしは、今日の私どものすがたを次のように教えられました。

まことにわれわれはわれわれ自身の生活を顧みます時、それは完全に浄土を見失った生活であることを認めなければなりません。

（『呼応の教育』 19～20頁）

浄土、それは「えらばず、きらわず、見すてず」の阿弥陀の攝取不捨のはたらきを身にうける心の世界です。その浄土を見失っているということは、私もが事実、他の人々と共にいるのにもかかわらず、その単純な生活の事実がわからなくなっているということです。浄土を見失っているということは、実は自分を見失っているということでしょう。

日ごろの自分のすがたを振り返れば、人に対しても自分自身に対しても、えらび、きらい、見すてる心しか持ち合わせていません。そういう愚かな自分を徹底して知るのが生活学習です。

大谷専修学院が生活ということを学びの根底にしているのは、ご本尊阿弥陀如来のもとでの生活を回復したいと願うからです。どんなに酷薄な、自己中心的な心に囚われていようとも、われもひと共にも共にいるという単純な生活の事実があります。

浄土を回復し、真実の自分を回復するために、学院では朝夕のお勤めが生活の中心になります。「あなたはちゃんとそこにいるよ」という阿弥陀如来の声なき声を聞く姿勢を大事にしたいからです。

聞法・学習・生活とつながり合う念仏の学校が、あなたをお待ちしています。

## I 学院の教育について

学院の教育は、われわれが新しく仏教徒として立ちあがるために行われるものです。この学院には、われわれの自他に等しく与えられた実り豊かな人生を、仏の教えしたがに順って見開かなければならないという、一つの願いがあるのです。

生活に必要な知識や技術を習得するということは、むろんわれわれに欠くことのできない大切なことであり、その機会を与えることが、一般には、教育だというふうと考えられがちです。

しかしただそれだけで、もし純なる信仰と、それに基づく正しい思想と深い愛情とが培つちかわれるのでないならば、われわれはいったいどんな人間になるのでしょうか。おそらく自分でそれと気づかないまま、あらゆる面で自我意識の虜とりこになった、憐れな人間になっていくのではないのでしょうか。そしてそのような人間として、ただ自我意識の立場から人生を捉とらえるだけであるならば、われわれの人生というものも、結局極めまめかて限られた、非常に貧しく、醜いものになることは免れられないでしょう。

仏教はそうしたわれわれのため、本当の人生というものを、つまり、自他に等しく実り豊かに生きることのできる、真実の人生をわれわれに見開かせる教えです。そして学院における教育は、まさにその教えに向かつて自らを<sup>ささ</sup>げようという願いのもとに行われています。

そうした願いからこの学院では、「人間が人間を教育できるとする人間中心の教育観によることなく、如来の人間教育の具体相たる「呼応の教育」が、われらの帰すべきまことの教育として、自然に行われるものでなければならない」とし、その願いを実現するためにも、「教職員と学生とが本尊を中心とした聞法・学習・生活を共にする」共同生活を実施するものであります。教職員・学生といっても、学院でのその関係は、阿弥陀如来のもとにお互いに学生であることが望まれます。そういう在りかたを「オールスチューデント・システム」(注)と呼びます。

われわれの共同生活は、そのようなオールスチューデント・システムを根幹とし、その「呼応の教育」が具体化されるものでなければなりません。

われわれはそのなかで、仏の教えを通して各自の問題を明らかにし、また心うちとけて悩みを語り合えるまでに、相互の信頼と友情を深めていきましょう。

#### ※「オールスチューデント・システム」への改定について

2022年3月、大谷専修学院は「ブラザー・システム」の語を、「オールスチューデント・システム」へ改定いたしました。

信國淳氏は「ブラザー・システム」の語について、「この学院における私どもと諸君との出会いは、師弟としての出会いであるよりは、むしろ兄弟としての出会いである」「教える者と教えられる者という、教えにおける人間の二者対立的な関係を絶対ゆるすことのない、仏の人間教育そのものに相応しようとするシステム」(『呼応の教育』21～22頁)と表現しています。

大谷専修学院では、この言葉のもとに共同生活における出会いを大切にしてきましたが、以前よりなされていた「ブラザー」や「兄弟」という表現への問題提起を、性差別に反対する声と受けとめることのできないまま、今日まで「ブラザー・システム」という語を使用し続けてまいりました。また、2017年には性差別事象を起こしながらも、学院卒業生や関係者の方々があげ続けた声を「糾弾」と受けとめることができず、四年以上もの時間が経過しました。これらの出来事を機縁とし2021年には、性差別を無視できた根本の原因を明らかにする学習が始まり、「ブラザー・システム」の語についても、ようやく改定に向け動き始めました。

性差別への糾弾の声をあげ続けてきた方々や、同窓生学習会「青草びとの会」事務局員と共に話し合いを重ねる中で、「ブラザー」や「兄弟」については、「同じ仏の教えのもとに全く平等であるべき」(同前10頁)人間の関係性を、「男性」と明確に性を別した上で、「男性同士」に限定する排他的な表現であることが確かめられました。同時に、「ブラザー・システ

ム」という言葉で表現される職員の立場や、学生との関係性については、「この学院では、私ども教師と呼ばれる者も、諸君ら学生と全く同様、一否、むしろ私どもこそ率先して、自ら仏の教えの感化にあずかり、それから直に教育される」（同前10頁）ものと受けとめ直してまいりました。

これらの問題意識を共有し新たな表現を模索する中で、信國氏が、「念仏の信心という教育者」（同前23頁）のもとにみな学生（オールスチューデント）であること、「仏の教育的生命」（同前14頁）が互いの信心を呼び覚ます「呼応の教育」を学院における教育の願いとしたことを受けて、大谷専修学院では「ブラザー・システム」の語を、「オールスチューデント・システム」へ改定することといたしました。

この度の改定が学院外からの糾弾によりもたらされたことの意義を重く受けとめております。「ブラザー」という語を使い続けることによって「存在しない人たち」を生み出し続けていたことは、大谷専修学院が「まことにわれわれはわれわれ自身の生活を顧みます時、それは完全に浄土を見失った生活であることを認めなければなりません」（同前19～20頁）と、信國氏の歎異する無慚無愧な場であったことを教え示しています。

「オールスチューデント・システム」への改定が、「呼応の教育」実現に資することを念願し、性差別を無視できた根本の原因を明らかにする学習と、あらゆる差別克服の実践（関係性やシステムの再構築）を続けてまいります。

## Ⅱ 学院の生活について

### 1 入学

真宗大谷派の僧侶という職業に従事しようとして、その教師資格を得るためにこの学院を志望する者が多くいます。しかし学院は、僧職に必要な知識を学習するだけでなく、むしろどんな職業にたずさわろうとも、人として欠くことのできない信念を養うことを目的とするのであります。

学院で行われる教育は、われわれがいかなる職業にたずさわるにせよ、それを自己一人の生活手段とするのではなく、生きとし生けるすべてのものとの全体的な関連において、誠実に自己の分を尽くす仏教徒としての自覚を目指すものなのです。

そのことを自覚的に選びとるために、学院に入学する者は、入学式にあたって、一人ひとり御本尊の前で、「新しく仏教徒として共同生活の中に真宗精神を体得すべく努力精進する」ことを宣誓し、生活がはじまるのです。



入学式での宣誓の様子

## 2 勤行と感話

学院での生活は、朝の勤行に始まり、夕の勤行で終わる日々です。 莊嚴<sup>しょうごん</sup>された御本尊の前で、われわれは各自の内に新しく仏<sup>くぎょう</sup>を恭敬する精神を養っていくのです。

学院生は当番制によって朝夕における勤行の調声<sup>ちようしょう</sup>を勤め、その威儀<sup>いぎ</sup>を学ばなければなりません。勤行後に行う感話は、学院生の聞法・学習をとおしての率直な生活所感の発表の場です。そして時にはそれが教職員と共に掘りさげられ、吟味され、共通の話題として取りあげられることにもなります。また、勤行の当番にあたった学院生は、一日の学院生活に責任を持ちます。

なお、仏弟子としての生活姿勢を整えるため、茶髪等の髪染めや、華美な服装、装飾は謹まなければなりません。



朝のお勤めは講堂で行い、当番の者が調声・感話をします。

## 3 清掃

われわれは毎朝登院すると、班にわかれて、学舎の内外・トイレ・庭等の清掃を行います。また時には全般的な大掃除を行うこともあります。労働をいとわない健康な心をお互い忘れないようにしましょう。



午前6時20分に起床し、寮掃除のあと登院し学舎の掃除をします。

## 4 授業

### (1) 学科

授業は仏教徒として真面目な学習態度を養うことと、社会生活全般について正しい視野をもつことに留意されています。学科は浄土真宗の教義を中心とする仏教の諸学問と、史学・声明・宗教学・哲学・音楽等です。

「学院長講義」は教職員・学院生の全員が聴講（全文筆記）し、ミーティング・攻研究座談において、問題を挙げて深めていきます。



講堂での授業の様子

### (2) 講読

浄土三部経と歎異抄は、グループに分かれて講読し、演習します。「聞くことを学び」「学ぶことを習う」真摯な自主的態度をお互いみができます。



小教室で机を囲んで授業をします。

### (3) 教化学

「教化」とは、「われもひと共にも共に仏から教化を受ける（教えられる）者」として自信教人信の誠を尽くし、同朋社会の顕現に努めることです。

学院では教化学として「レポート面接」を実施しております。各人が、自身の抱えている問題を課題にしていくことを通して親鸞聖人の教えに出会い、聖人の教えをどれだけ深く学び得ているかを、作成したレポートを手掛かりとして、教職員との対話を重ねながら確かめあう科目です。

また、教化学実習として当番制で講師をお招きして公開の「同朋講座」を担当します。

### (4) 情操

書道・華道の学習によって、われわれの生活感情を豊かにし、人としての品位と和らぎの心を培います。



書道の授業の様子

## 5 願生の会と同朋会

### (1) 願生の会

学院生、教職員、全員で願生の会を構成し、学院作り・学寮作りにおける共同生活の問題を共に話し合い、共に学び、共に解決していくことができることを願っています。

### (2) 同朋会

学院生と教職員は全員で同朋会を結成し、同朋会活動に参加します。

年数回土曜日の午前に、各方面から講師を招き、「歎異抄に聞く同朋講座」が開かれています。これは一般に向けて公開されたものです。われわれは広く人々との間に交わりを求め、われわれに共通する問題を共に明らかにし、深めていくことを願うからです。



同朋講座

## 6 機関誌

がんしょう

『願生』は本学院の機関誌です。これを通じて学院作りの様子が同窓生等に伝えられます。



## 7 行事・年間日程

春には親睦ソフトボール大会が催されます。また弁論大会も行われ、全学生の活発な弁論が発表されます。

秋には学院での「聞法・学習・生活」を発表していく場としての願生会が行われ、記念講演・研究発表・各種展示会などが催されています。

親鸞聖人の教えを学ぶわれわれは、真宗本廟で行われる、聖人の遺徳を偲ぶ報恩講に参拝し、また学院・学寮においても報恩講を勤修します。



### 親睦ソフトボール大会

近隣のグラウンドで行われます。3頁の学院長の写真はこの時に撮影されたものです。

### 弁論大会

1人ずつ壇上で弁論を発表してもらいます。お互いの声を聞き合う大切な学びの場です。



がんしょうえ

### 願生会

学びの中間発表の場として願生会を開催します。職員・学院生が協力して準備・運営をします。写真は飾り付けられた学舎玄関です。

### 学寮報恩講

各寮の仏間で行われます。報恩講を勤めた後に別科生が作ってくれたお斎を皆でいただきます。



## <一学期>

- 4月 入学式・入寮式  
オリエンテーション  
真宗本廟 大谷祖廟参拝  
親睦ソフトボール大会  
弁論大会
- 5月 連休  
グループ別課外学習  
防火訓練
- 6月 得度式  
期末レポート面接
- 7月 学期末試験  
一学期終業式



## <二学期>

- 9月 二学期始業式  
前期教師修練
- 10月 竹中智秀先生を憶う会  
願生会  
各種学校スポーツ大会
- 11月 研修旅行  
期末レポート面接  
真宗本廟 報恩講「御伝鈔」拝聴  
真宗本廟 報恩講「御満座」参詣  
学寮報恩講
- 12月 学院報恩講  
学期末試験  
二学期終業式



## <三学期>

- 1月 三学期始業式  
後期教師修練
- 2月 卒業レポート面接
- 3月 青草会  
学年末試験  
おわかれ会  
卒業式、教師補任式



2022年度研修旅行 長島愛生園にて

※やむをえない事情で日程変更の場合があります。

### Ⅲ 食堂の生活について

食堂は共同生活の具体化される主要な場であり、そこでは食事を作る者と食べる者が一体となり、学院の精神に呼応する場の開かれることが願われています。そのため、食事作りおよび後かたづけは教職員と学院生が協力して行います。

別科生は、食堂のチーフ等の仕事を通して生活学習をします。

休みの日は食堂も休みとなり、各自で食事をとります。



別科生は本科生に先立って起床し、皆のための朝食作りをします。

夕食作りは本科生も手伝います。

一週間の献立は別科生で決めています。

勤行のあと、食堂で別科生が作ってくれた朝食を皆そろっていただきます。



本科生の当番の者たちが、皆の食器を洗い、後片づけをします。

## Ⅳ学寮の生活について

本学院は全寮制です。原則として帰省・外泊はできません。

### 1 学寮

本学院にはいくつか学寮があり、学舎も含めて修練の道場であるところから、これを総称して本願寺修練舎と呼びます。

#### 淳心寮

閑静な住宅街の一角にあります。



#### 育英寮

自然がいっぱい、緑に囲まれています。



#### 一心寮

学舎の目の前、山科別院の境内にあります。



## 2 生活規律

学寮は、教職員と学院生が生活を共にする学びの場であり、オールスチューデント・システム（5頁注を参照）に基づいて、友愛にみちた規律ある生活が行われるところです。

起床・清掃・外出・学習・門限・就寝等については、定められた規律を厳守して、自主・自立的な生活を身につけるようにしましょう。そのためゲーム・かけごと・飲酒は禁止しています。

## 3 寮当番

学院生は班ごとに当番を定めて、その日の寮生活の全般について責任者となります。当番にあたった学院生は一日の生活所感を日誌に記入します。

## 4 ミーティング

週2回、班ごとにミーティングがもたれます。

火曜日は、学院長講義を受けてその内容が深められていきます。木曜日は、生活全般について話し合い、共に学ぶわれわれの生活を常に新鮮で活気のあふれたものにしていきます。また必要に応じて臨時ミーティングを行います。



学寮へ帰りミーティングをします。学寮が一番重要な生活学習の場です。

## 5 学習と就寝

夜は静かにし、お互いの学習を乱さないように心がけましょう。一日の疲れを取り、明日の活動に備える睡眠時間は、共同生活にあっては特に注意し、お互いに大切にしていきましょう。

## 6 部屋の交替

お互いの交わりを深めていく共同生活の中で、寮交替・班交替・部屋交替をすることがあります。

# V学院生活の1日

2022年度

共通の動き

本科生の動き

別科生の動き

| 時刻    | 月      | 火      | 水      | 木      | 金      | 土      |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 6:20  | 起床・寮清掃 | 起床・寮清掃 | 起床・寮清掃 | 起床・寮清掃 | 起床・寮清掃 |        |
| 7:00  | 食事作り   | 食事作り   | 食事作り   | 食事作り   | 食事作り   | 起床・寮清掃 |
| 7:20  | 勤行     | 勤行     | 勤行     | 勤行     | 勤行     | 食事作り   |
| 8:00  | 朝食・清掃  | 朝食・清掃  | 朝食・清掃  | 朝食・清掃  | 朝食・清掃  | 勤行     |
|       |        |        |        |        |        | 朝食・清掃  |
| 9:20  | 授業①    | 授業①    | 授業①    | 授業①    | 授業①    | 授業①    |
| 10:20 |        | 授業②    | 授業②    | 授業②    | 授業②    | 授業②    |
| 10:40 | 授業②    |        | 食事作り   |        | 食事作り   |        |
| 11:20 |        | 授業③    | 授業③    | 授業③    | 授業③    | 授業③    |
| 12:10 | 昼食     | 昼食     | 昼食     | 昼食     | 昼食     | 昼食     |
| 13:10 | 授業③    | 授業④    | 授業④    | 授業④    | 授業④    |        |
| 14:00 |        | 清掃     | 諸会合    | 清掃     |        |        |
| 14:30 |        |        |        |        |        |        |
| 15:00 | 食事作り   |        | 食事作り   | 食事作り   | 食事作り   | 食事作り   |
| 16:00 |        | ミーティング |        | ミーティング |        |        |
| 17:00 | 勤行     |        | 勤行     |        | 勤行     | 勤行     |
| 17:30 | 夕食・清掃  |        | 夕食・清掃  |        | 夕食・清掃  | 夕食・清掃  |
|       |        | 夕食     |        | 夕食     |        |        |
| 19:00 | 入浴     | 入浴     | 入浴     | 入浴     | 入浴     | 入浴     |
| 21:30 |        |        |        |        |        |        |
| 22:00 | 消灯・就寝  | 消灯・就寝  | 消灯・就寝  | 消灯・就寝  | 消灯・就寝  | 消灯・就寝  |

※時間は都合により変更する場合があります。

## Ⅵ学院生活をしていく上での留意点

○部屋は12～16畳の和室で複数名での共同生活のため、身の回り品は最小限度にしてください。

○携帯電話、スマートフォン、音楽再生機器等の通信・通話機能を備えた機器を持参された場合は、学院での学びに集中していただくために預からさせていただきます。ご不明なことがありましたら、ご相談ください。

（通信・通話に関する契約を無効にしているものも含まれます）

○入浴については、風呂・シャワー等の設備があります。

○緊急時以外、学寮での電話の取次ぎはしません。連絡は学舎にしてください。

○夏休み、冬休みは学寮を閉鎖します。

### ＜合格発表後の荷物の持ち込みについて＞

荷物についての詳しいことは4月6日の入学説明会で伝達します。なお入寮は4月14日の入学式後になります。

※学寮の部屋は全て和室なので机は座机にしてください。イスの持込みはできません。

※学寮には共同使用として、エアコン、冷蔵庫、電子レンジ、洗濯機、掃除機、加湿器、アイロン、洋服掛け等があります。

※電化製品類の持ち込みについては教職員に相談してください。

※次の物の持込みはできません。

テレビ等の映像機器、パソコン、タブレット端末、スマートウォッチ等、ゲーム類（カードゲーム・ボードゲームを含む）、楽器類、レジャー用品、運動器具、自転車・バイク・乗用車（レンタカーの使用も禁じます）

●学院の生活—朝の寮清掃から、登院後の清掃、勤行、授業、食事および食事作り、ミーティング等—is、すべて自分の内容としての生活学習であり、個人的都合で休んだり選んだりすることはできません。

●夏・冬休みを除く学業期間中のアルバイト・習い事はできません。

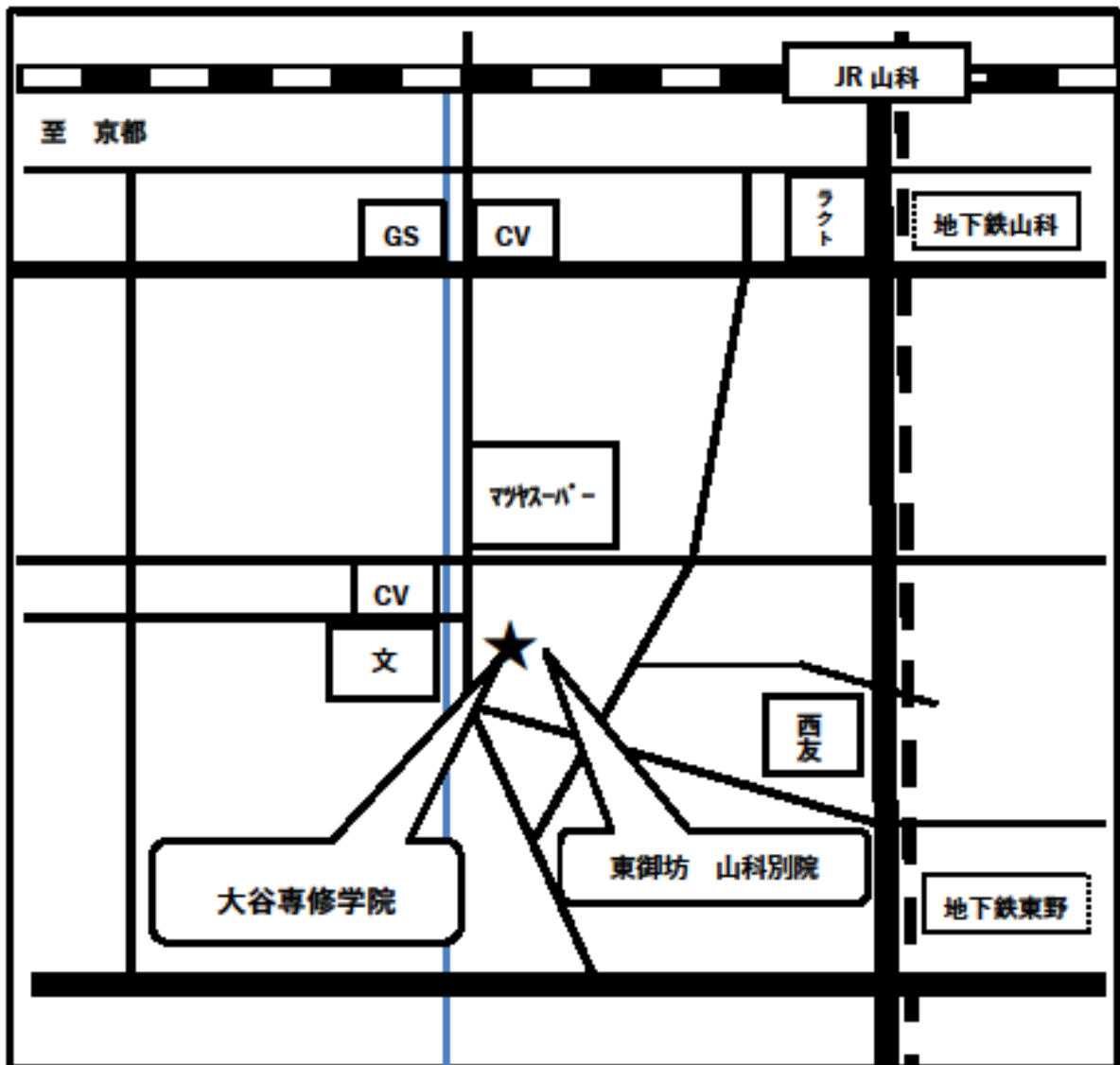
## VIIコンプライアンス・ガイドライン・マニュアルについて

大谷専修学院では、「コンプライアンスマニュアル」、「新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」、「体調不良時・症状別対応マニュアル」の遵守に同意をいただいた上でご入学をお願いしております。

2023年度版については、2023年4月6日(木)入学説明会にて配付いたします。

参照として、2022年度版PDFファイルをそれぞれ添付いたしますので、入学試験・面接に臨むにあたって、ご一読いただけますようお願いいたします。

## <学院周辺地図>



お問い合わせは、下記にお願いします。

## 大谷専修学院

〒607-8087 京都市山科区竹鼻サイカシ町 1 3 - 1 7

T E L 075-501-5888 F A X 075-501-5858

J R ・ 地下鉄「山科」駅 6 番出口より徒歩約 1 5 分

地下鉄「東野」駅 1 番出口より徒歩約 1 0 分